

輸出事業計画

※申請者名：丸石醸造(株)、品目：清酒・リキュール類

1. 輸出における現状と課題

- ・ 当社の創業は、1690年（元禄 3 年）、岡崎城下で清酒製造に携わり、近年は清酒に果実等をフレーバーとして添加したリキュール類を製造。
- ・ 国内のアルコール需要が年々減少する中、事業内容を見直し、2011年から海外を含む販路拡大を実施。
- ・ 清酒・リキュール類の輸出に際し、輸出先のバイヤーから、HACCP基準に基づいた衛生管理手法の実施や国際認証の取得が望まれている。
- ・ 過去に発生したクレーム事例を検証すると異物混入が最も多く、生産工程の改善が必要である。
- ・ 当社の酒蔵は、HACCPの基準に達しておらず、国際認証（ISO22000等）の取得が困難な状況にある。
- ・ 輸出拡大にあたっては、高まる需要を逃さないように供給体制の整備や生産の効率化の取組みも併せて行っていく必要がある。

2. 輸出事業計画の取組内容

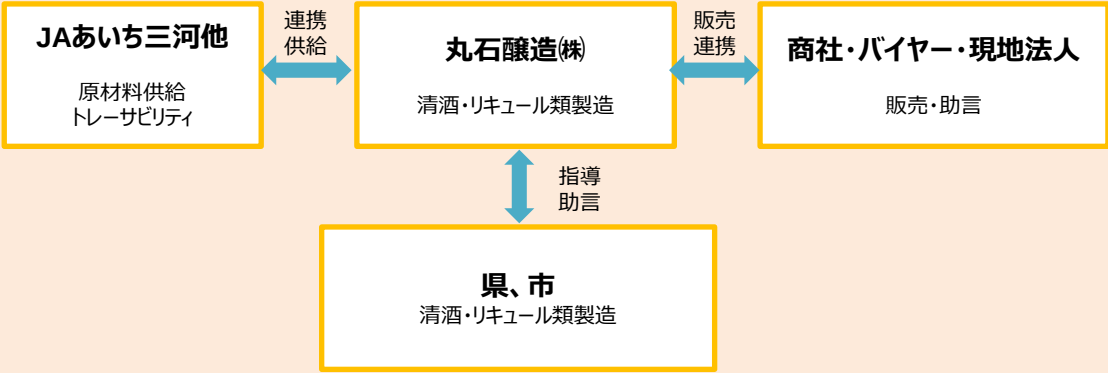
- ・ ISO22000認証の取得に向けて、コンサルタント及び醸造機器メーカーのアドバイスを受けながら、施設の改修を行う。
- ・ 2022年に食品産業の輸出向けHACCP等対応施設整備緊急対策事業を活用した設備導入及び施設改修を実施し、2024年 3 月までにISO22000認証を取得する。
- ・ 従業員の衛生管理意識の醸成やコンサルティングを受けた衛生的な施設・設備での生産による輸出促進を図っていく。
- ・ また、HACCP基準を満たす衛生管理及び製造工程に見直した後は、海外で日本産酒類の需要が高まっている、この機を逃さないよう製造タンク（仕込・貯蔵併用）の増強や農産物等輸出拡大施設整備事業を活用した冷蔵施設の整備、ラベラー機の導入による品質の向上及び供給体制の強化、生産性の向上に取組む。

輸出事業計画

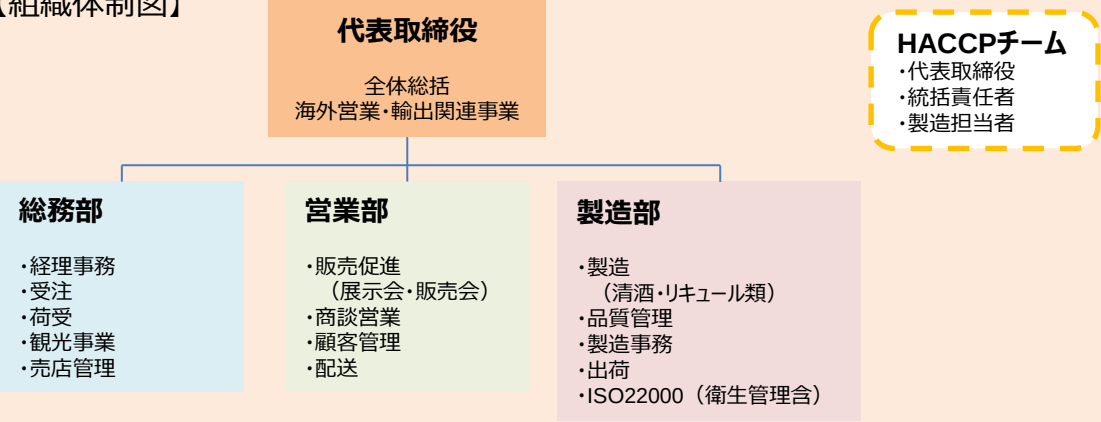
※申請者名：丸石醸造(株)、品目：清酒・リキュール類

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

【連携体制図】



【組織体制図】



4. 輸出目標額

項目	清酒		リキュール類	
	現状	目標年	現状	目標年
	2021年	2027年	2021年	2027年
	令和3年度 (9月期)	令和9年度 (9月期)	令和3年度 (9月期)	令和9年度 (9月期)
輸出額 (千円)	22,657	70,000	15,343	19,800
輸出量 (L)	13,314	41,000	9,452	12,000
輸出先国	香港、韓国、中国、 台湾、アメリカ、 オーストラリア、カナダ フランス、マレーシア、 イギリス、タイ、ベトナム	香港、韓国、中国、 台湾、アメリカ、 オーストラリア、カナダ フランス、マレーシア、 イギリス、ベトナム シンガポール、ドイツ ニュージーランド、インド、 アラブ首長国連邦 タイ、オランダ、ノルウェー、 フィリピン、イタリア	香港、中国、台湾、 アメリカ、 オーストラリア、カナダ アラブ首長国連邦、 タイ	香港、中国、台湾、 アメリカ、 オーストラリア、カナダ アラブ首長国連邦、 タイ